

18	豊田	花山小学校	ハラグチ キョウシロウ 氏名 原 口 恭 司 郎
分科会番号	1	分科会名	国語教育（作文その他）

自分の思いをもち、相手に気持ちが伝わる文章で感謝の手紙を書く子の育成
— 小学2年国語科「お店の人にかんしゃをおくろう大作戦」の実践を通して —

1 主題設定の理由

本学級の児童は、どの学習にも意欲的に取り組むことができ、手紙を書くことが好きな児童が多い。1年時に、「サラダでげんき」の言語活動で、「りっちゃん」に手紙を書く活動にも意欲的に取り組んだ。4月、担任が出張で不在の時に「1年間よろしく」といった内容の手紙を、代わりに授業に入った先生と一緒に書いてくれた。6月の「はたらく人に話を聞こう」の学習では、校長先生の仕事の大変さを知り、自分たちから「感謝の手紙を書きたい」と言って、手紙を書いた。しかし、校長先生に書いた手紙を読むと、「こうちょうせんせいえ」のような誤字や、「ありがとうございます」を繰り返すなど、自分の気持ちを表現したいけれどもうまく言葉にできていない手紙が見られた。また、黒板に書いてあった文例をそのまま書いている児童がいた。その児童は、学級活動「友だちのよいところを見つけよう」の学習をしたときに、「よいところが思い浮かばない」「何かをしてもらったことはない」と発言し、「ありがとう」という気持ちをもてた経験が少ないと感じられた。また、筆記に関しては「早く終わらせたい」という気持ちが強く、ノートのまさらはみ出してしまいうことがよく見られる。文字が傾き、読みにくいことが多い。

そこで、研究主題を「自分の思いをもち、相手に気持ちが伝わる文章で感謝の手紙を書く子の育成」とし、実践を行う。子どもたち一人ひとりの意欲を大切にできるよう、単元の導入では、生活科の町探検で話を聞かせていただいたお店の方を想起する。次に、モデル文を参考に、驚いたことや、してもらったことを自分の思いとして文章にする。そうすることで、お店の方への感謝の気持ちをもつとともに、伝えたいことを明確にすることができるだろう。そして、地域社会と協力をはかり、「お店の人に渡す」という目的意識をもつことで、文章を読み返し、相手に気持ちが伝わる文章で丁寧に書くことができるかを確認することにつながると考えた。

2 めざす子ども像

自分の思いをもち、相手に気持ちが伝わる文章で感謝の手紙を書く子の育成

3 仮説と手立て

(1) 仮説

仮説1	町探検で教えてもらったことなどの体験を想起し、気持ちを表す言葉を増やし、思考ツールを活用することで、自分の思いをもち、感謝の気持ちを伝えようとすることができるだろう
仮説2	手紙の書き方について知り、グループ活動を工夫することで、文章の内容を深めたり自分の文章を見直したりすることができるだろう

(2) 研究の手立て

① 仮説1に対する手立て

- 手立て1 町探検の様子や1年生への発表時の写真や振り返りの資料を提示し、町探検で教えてもらったことや発表ができたことへの感謝の思いをもてるようにする。
- 手立て2 朝学習で文の書き方や、場面絵の気持ちを想像する経験を繰り返し行い嬉しいときにどんな言葉を使うとよいかを考えられるようにする。
- 手立て3 思考ツールを工夫し、一番嬉しかったことや驚いたことなど、伝えたいことを整理することができるようにする。

② 仮説2に対する手立て

- 手立て4 「クラスの子に向けた手紙」「町探検でお世話になった店の方への手紙」のモデル文を比較することで、手紙の構成や、目上の人に対する手紙の書き方について気付くことができるようにする。
- 手立て5 同じ訪問先のグループで文章を互いに校正し、内容を深めたり、誤字や文章のねじれをアドバイスし合ったりする。また、違う訪問先のグループでお店の人の気持ちになってお互いの手紙を読み合い、文章の内容、書き方、文字の丁寧さなどのよさを認め合うようにする。

(3) 抽出児童について

児童 A の実態 校長先生への手紙では、例示した以外に感謝する内容が思い浮かばず、「ありがとうございます。」と繰り返し書いた。トヨタ工業学園の方への手紙では、「きれいにしてくれてありがとうございます。」の一文を書いた。丁寧な言葉遣いで文章が書けるが、「わたしわ」や「うれしかた」のような誤字が多い。	めざす姿 手立てを通して、町探検の経験を想起し、お世話になった方へ嬉しかったことや驚いたことなどの自分の思いをもち、感謝の手紙を書くことができるようにしたい。また、書いた文章を読み返し、誤字に気付き、修正ができるようにしたい。
児童 B の実態 校長先生への手紙では、例示した内容を書き写した。授業の発問に対しては意見をもつことができる。「ニャーゴ」の学習では、ねこが子ねずみを食べなかった理由として「いいやつを食べてはいけないと思ったから」と発言した。文章は平仮名が多く乱雑で読みにくい。9月の友達のよいところ見つけでは「思い浮かばない」と発言し、教師が支援して書いた。	めざす姿 手立てを通して、町探検の経験を想起し、お世話になった方へ嬉しかったことや驚いたことなどの自分の思いをもてるようにしたい。モデル文を示すことで、内容や順序、敬体に注意して文章を書くことができるようにしたい。また、書いた文章を読み返し、誤字に気付き、修正ができるようにしたい。

4 単元構想（全 8 時間）

	学習活動	教師の指導	関連教科
第一次 見通す	1 お店の人にどんなお礼ができるか考えよう（手立て 1） ○手紙のよさについて考える。 2 手紙に書きたいことを考えよう（手立て 2、3） ○どのような出来事についての感謝かをプリントに書く。 3 お店の人への手紙の書き方について考えよう（手立て 4） ○常体と敬体の使い分けに気付き、相手に応じた言葉遣いを意識する。	①町探検の様子、町探検のまとめを 1 年生に発表している様子、1 年生からお礼の手紙をもらった様子の写真を提示する。 ②伝えたいことを整理しやすくするために思考ツールを活用したワークシートを使用する。 ③「クラスの子に向けた手紙」「お店の方への手紙」のモデル文を用意し、手紙の構成や、相手に応じた言葉遣いについて気付くことができるようにする。	・生活科「町探検をしよう」 ・学級活動「お礼の手紙を書こう」 ・朝学習「作文を書くための本」 ・書写・漢字の学習 ・学級活動「手紙を投函しよう」
第二次 取り組む	4 自分の気持ちがつたわるように手紙を書こう ○手紙の構成や言葉の使い方などに注意しながら、下書きを作る。 5 書いた手紙をグループでたしかめて、手紙をレベルアップさせよう（手立て 5）	④手紙の構成や言葉の使い方などに注意して文章を書くことができるようにする。 ⑤一つの手紙に対してチェックシートを使って読み合う。	
第三次 広げる	6 手紙をせいししよう ○丁寧な字や、正しい字形で書くように気をつけて清書する。 7 書いた手紙を読み合い、学習をふりかえろう（手立て 5） ○違う店のグループ同士で手紙を読み合いよいところを伝え合う。 8 お店の人からの手紙を読もう ○お店の方に書いた手紙の返事を読み、学習の達成感をもつ。	⑥第 5 時のグループでのアドバイスを基にこれまでの学習を生かして手紙を書くように促す。 ⑦違う訪問先のグループで手紙を読み合い、よく書けているところを認め合うように促す。 ⑧店の方に実際にお願いをしておき、児童の学習の達成感をもつことができるようにする。	

5 実践と考察

(1) お店の人に、どんなお礼ができるか考えよう（手立て 1）

単元の第 1 時の導入で、町探検の様子の写真、1 年生へ発表したときの資料や 1 年生からのお礼の手紙をもらっている様子の写真を提示し、町探検に行ったことで、1 年生に発表ができたことを想起できるようにした。（資料①）

そこで、「お店の方に、どんなお礼ができるか」と発問すると、A児が「お礼の手紙を書く」と発言した。また、他の児童が「折り紙を折って渡したい」「切手を貼って、封筒に入れて郵便に出したい」と発言した。そこで、単元名を児童の発言をもとに「お店の人にかんしゃをおくろう大作戦」と設定し、「①手紙を書く」「②折り紙を折る」「③封筒に入れて渡す」計画を立てた。

手紙を書くという意見に加え、「折り紙を折りたい」という意見が出たことで、それらを送るためには、「封筒に宛名書きを書かなければならない」という必要感も生まれた。学習の振り返りで「感謝の気持ちを込めて手紙を書きたい」という発言の後、A児が「これからの手紙の学習が楽しみ」と発言した。写真の提示などから、お店の方に感謝の思いをもち、学習の必要性を示した点において、手立て1は有効であったと考える。



資料① 1年生からのA児へのお礼の手紙

(2) 様子や、場面絵から気持ちを想像しよう(手立て2)

『小学校6年生までに必要な作文力が1冊でしっかり身につく本』(かんき出版著: 安藤英明)を参考に、「使える言葉」を増やす取組を行った。身近な物の名前を連想し、様子や気持ちを表す言葉を想像させて書かせる活動を週1・2回、計6回行った。4回目の取組では、B児は1つの絵から、様子を表す言葉を繰り返すなども含めて6つ想像することができたのに対し、A児は、半数ほどであった。(資料②③)しかし、6回目の取組では、A児が場面絵の気持ちを全て想像できている様子が見られた。(資料④)この学習を通して、場面ごとにどのような言葉掛けをするとよいかを考え、表現できるようになったことから、手立て2は有効であったと考える。



資料② B児4回目プリント



資料③ A児4回目プリント



資料④ A児6回目プリント

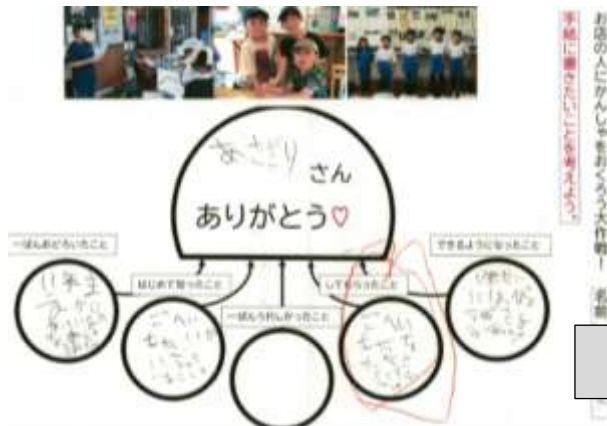
(3) 手紙に書きたいことを考えよう(手立て3)

自分の思いをもてるように思考ツールを活用した。町探検をして、「驚いたこと」「初めて知ったこと」「嬉しかったこと」「してもらったこと」「できるようになったこと」の5項目を想起できるようにした。店名を書く欄を設け、関連する写真を載せたことで、A児・B児どちらも活動を想起することができた。(資料⑤⑥)

A児については、店が95年間も続いていることに驚き、振り返りで「(手紙で一番伝えたいことは)聞いてびっくりしたから、いちばんおどろいたことにしました」と書いた。B児は「嬉しかったこと」に記入することはできなかったが、「五平餅を食べさせてもらったことを一番伝えたい」と発言した。この思考ツールを取り入れたことで、自分の一番伝えたいことを可視化し、整理することができた。特にB児には手紙を書く際に有効に働いたことから、手立て3は有効であったと考える。



資料⑤ A児のクラゲチャート



資料⑥ B児のクラゲチャート

(4) お店の人への手紙の書き方について考えよう(手立て4)

第3時は①クラスの友だちへの手紙②訪問先の人への手紙を比較し、気が付いたことを話し合い色別にまとめた。「お店の名前が先に書いてある」「『ありがとうございます』と、丁寧な言葉遣いで書いてある」などの相違点が挙げられた。(資料⑦)意見から全8項目にまとめた。

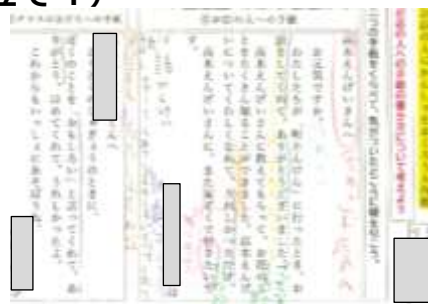
項目が8個あり、お店の方に感謝を伝えハッピーになってもらいたいことから児童たちが「8ッピーセット」と名付けた。(資料⑧)

文章構成として②が「始め」、③～⑤が「中」、⑥が「終わり」となっている。訪問先の方に③⑤で体験を書き⑥で自分の気持ちを書き、④の敬体で書くことを確かめた。⑧については、「正しくていねいに書くこと」とした。

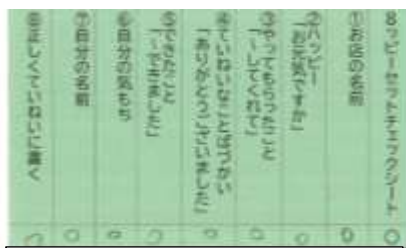
この「8ッピーセット」を基に、手紙を書き、自分で文章を見直すことができるようにしたことで、A児は振り返りで「お店の人が喜ぶような手紙を書くポイントを見つられて嬉しかった」と書いた。

第5時前日の朝の学習の時間に、グループで文章を校正する練習を行った。常体多数の文章を、グループで丁寧な言葉遣いに直したり、自分の気持ちを付け加えたりしている姿が見られた。A児は「8ッピーセット」を見ながら、「さんを付ける」「いっぱいを入れる」などと発言した。

特に「いっぱい」については、自分がたくさん教えてもらったことから生まれた言葉だと考えられる。自分の思いをもちながら、相手に気持ちが伝わるように文章を見直している点において、手立て4は有効であったと考える。



資料⑦ A児ワークシート



資料⑧ 8ッピーセット
チェックシート

(5) 書いた手紙をグループでたしかめて、手紙をレベルアップさせよう。

書いた手紙を読み合い、学習をふりかえろう。(手立て5)

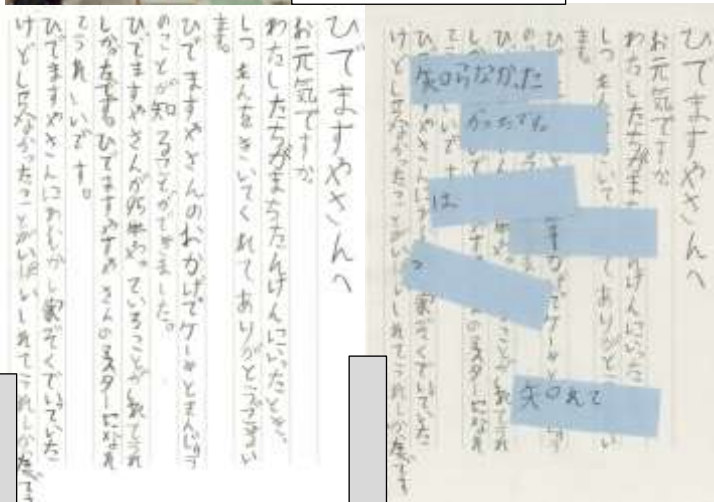
第5時では、同じ訪問先に行ったグループで文章を読み合い、「8ッピーセット」を基に文章を校正し合った。(資料⑧⑨⑩) A児の手紙を同じ訪問先のグループの児童が校正した。(資料⑪) B児は、同じグループの2人が「一番伝えたいことが書けているね」「『くわしく』が『しわしく』に見えるよ」など優しくアドバイスしてくれたことで、進んで文章を修正した。(資料⑫) また、自分で「『げんき』の『げん』は漢字にする」と発言し、漢字で書いた。これは、お店の人を意識して、より丁寧に文章を書こうとする意欲の表れだと考えられる。また、振り返りでB児は自ら挙手をし、「グループでいいところと直した方がいいところを確かめてレベルアップすることができた」と発言した。B児にとって、グループでの活動が有効に働いたと考えられる。



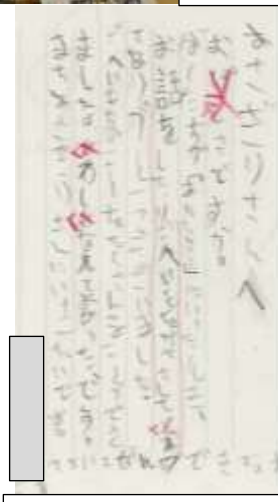
資料⑨ A児の手紙を校正し
合う同じ訪問先
のグループ児童



資料⑩ 同じ
訪問先のグル
ープで校正し
合うB児



資料⑪ 校正される前と後のA児の手紙



資料⑫ B児が
推敲した手紙

第7時では違う訪問先に行った人同士でグループを作り、書き終えた手紙を読み合った。A児の手紙を読んだ児童は「自分の気持ちが書けていていいね」「驚いたことや気持ち、知れたことを書いていていいね」と付箋に書き、A児は満足そうに付箋を読んでいた。(資料⑬)



資料⑬ 違う訪問先の人同士のグループで手紙を読み合うA児

以上から手立て5は有効であったと考える。

(6) お店の人からの手紙を読もう

「お店の人にかんしゃをおくろう大作戦」で、手紙、折り紙、封筒の宛名書きが終わった後、校内に配達に来る郵便配達員に手紙を渡した。



資料⑭ 郵便配達員に手紙を渡す児童

(資料⑭) 事前に店の方と打ち合わせをし、児童の文章に対応した手紙を書いてもらった。

(資料⑮) 訪問先の方から一人ひとりの感想に返信が来たことにたいへん喜んで読んでいた。



資料⑮ 訪問先からの返信を読むA児

児童たちは手紙に書いた自分の思いが相手に伝わったことへの達成感を味わうことができた。

6 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

仮説1について

今回の実践は「自分の思いをもち、相手に気持ちが伝わる文章で感謝の手紙を書く子の育成」をめざし、実践に取り組んだ。実践後に学級の児童に対してアンケートを行った。(資料⑯)

1 クラゲチャートは、お店の人に書きたいことを考えるのにどのくらい役に立ったか	
①なくても手紙が書けるから、なくてよかった	0人
②たしかめながら書くことができ、あってよかった	3人(含A児)
③たしかめながら書くことができ、とてもよかった	9人(含B児)
2 8ッピースットや、チェックシートは、お店の人に手紙を書くときにどのくらい役に立ったか	
①見なくても書けるから、なくてよかった	0人
②たしかめながら書くことができ、あってよかった	3人(含B児)
③たしかめながら書くことができ、とてもよかった	9人(含A児)
3 自分の思いを手紙に書くことができたか	
①書けていない	0人
②書けた	0人
③しっかり書けた	12人(含A・B児)
4 ていねいな手紙がこれから自分で書けそうか	
①書けない	0人
②書けそう	2人(含A・B児)
③書ける	10人

資料⑯ 実践後のアンケート結果

手立て1では、町探検や1年生への発表の様子を写真で提示したことで、訪問先の方に感謝の気持ちをもつことができた。また、手紙だけでなく「折り紙を渡したい」という意見から「お店の人にかんしゃをおくろう大作戦」と単元の学習課題を設定することができた。

手立て2では、「使える言葉」を増やす取組を行った。手紙を書くときに、実際にどの部分で有効に働いたかを確かめることはできなかったが、場面ごととどのような言葉掛けをするとよいかが身につについていったと考えられる。手立て3では、思考ツールを活用し、「嬉しかったこと」「できるようになったこと」などを想起できるようにした。A児は、「店が95年間も続いていること」に驚き、「そのことが1番伝わるようにしたい」と自分の思いをもつことができた。B児は「五平餅を食べさせてもらったことを一番伝えたい」と自分の思いをもつことができた。

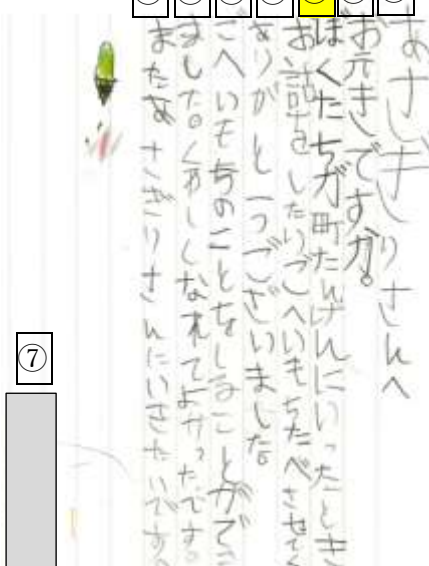
アンケート結果から、手立て3のクラゲチャートは全員が「あってよかった」と回答した。特に、B児が「とてもよかった」と回答しているところから、手紙にどんな内容を書くかを構想するのに有効だったと考えられる。手立て1・2・3があったことで、「自分の思いをもち」、「感謝の気持ちを伝えようとする」ことができた。よって、仮説1は実証できたといえる。

仮説2について

手立て4では、クラスの友だちへの手紙とお店の方への手紙を比較することで、常体と敬体の違いについて気付くことができた。また、手紙の書き方のポイントとして児童が8項目を挙げ、「8ッピースット」と名付けた。自分たちでポイントを見つけ合い、名称を付けることで子どもたちの中でより「活用したい」という思いが高まったと考えられる。A児が第3時の振り返りで、「お店の人が喜ぶような手紙を書くポイントを見つけられて嬉しかった」と書いたように、第1時の意欲からさらに高まっていることが分かった。また、相手に応じた言葉遣いについて考えることができた。

手立て5では、B児は、グループの2人が優しく教えてくれたことで、進んで文章を修正した。また、普段は漢字を使うのが苦手なB児が、『げんき』の『げん』は漢字にする」と発言し、漢字で書いた。これは、訪問先の方を意識して、より丁寧に文章を書こうとする意欲の表れだと考えられる。また、振り返りでは、「グループでいいところと直した方がいいところを見つけてレベルアップすることができた」と発言した。B児にとって、グループでの活動が有効に働いたと考えられる。第7時では違うグループを作り、書き終えた手紙を読み合った。A児に対して、他の児童は「自分の気持ちが書けていていいね」「驚いたことや気持ち、知れたことを書いていてい

アンケート結果からも、手立て4の「8ツピーセット」とチェックシートでも全員が「あってよかった」と回答した。特に、A児が「とてもよかった」と回答しているところから、A児にとって、どういう手紙が書けていればよいのか基準が明確になったことが有効だったと考えられる。また、「自分の思いを手紙に書くことができたか」という項目では、A・B児含め全員が「しっかり書けた」と回答しており、様々な手立てが有効に働き、達成感をもてたことが伺える。



資料⑱ B 児の手紙（上校長・下訪問先）

(2) 今後の課題

參考資料

6